

～平成 28 年度 七飯町海外交流派遣研修事業に参加して～

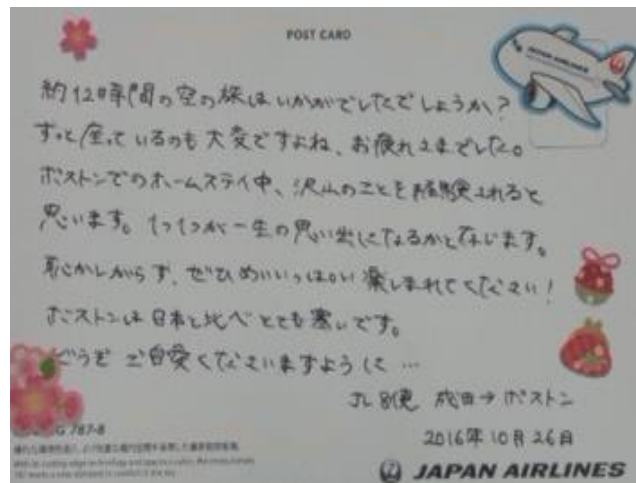
町民代表 ^{ごとう} 後藤 ^{ながまさ} 永匡

「運命のいたずらのような気がする...。」

間違いなく、2015年（平成27年）までの自分には、こうして七飯町の国際交流事業に携わることは、想像もできなかった。全く、国際交流の「こ」の字にこれっぽっちも関心がなかった自分が、七飯町の代表としてコンコードを訪れるとは...。40歳を前にして、人生をリセットされた気持ちにもなった。それだけに、行くとなったら最大限関わり、精一杯の成果（学び）を上げたいと思った。

2016年10月26日水曜日の朝、日常の雑多に完全に後ろ髪を引っぱられながら函館空港に向かった。自分以外の参加者も、大なり小なりそんな思いがあるだろうに、少しもそれを感じさせることがなく、まず1つ教えられた。成田までの移動や、ボストン行きの飛行機の離陸まで長い時間がかかったが、中高生が元気なのはもちろん、その元気を向こうでのラジオ出演準備にぶつけるなど、立派だった。また1つ教えられた。

機内では、海外交流にとっても理解のあるCAさんが、座骨神経痛に苦しむ自分をいたわってくれたり、オーロラの出現を知らせてくれたり、着陸後にメッセージカードを渡してくれたり、一期一会とはこういうことだと教えられた。



CAからのメッセージカード

2016年10月26日水曜日の夕方、ボストンのローガン空港に降り立った。出迎えるアメリカ人、アメリカンな送迎バスを見て、「これから本当に始まる」と武者震いがした。あっという間にホストファミリーとの対面式が行われ、いつの間にかジョイス家でスープをすすっていた。

完全な時差ボケで、初日は2時間、2日目は1時間しか眠れなかった。不眠特有の空中浮遊感の中、行程は進む。中高生のラジオ出演の見学をした。「ON AIR」ランプが付くまで、ワイワイと好き勝手にしゃべっていた彼らが、まるでベテラン俳優や女優のように顔つきが変わった。また1つ、驚かされ、教えられた。

2日目は、名平先生の俳句の授業や中高生の授業参加を見学した。名平先生の授業に真剣に聞き入り、素晴らしい作品を作るカーライル高校の生徒に、とても感動させられた。また、授業中に積極的にコミュニケーションをとり、国境の垣根を越えた汗ほとばしるドッジボールを展開する七飯町中高生の姿に、感心した。その後訪れたセーラムの街が、ハロウィン一色に染まっている雰囲気にも「ほほおう」と思ったが、それには及ばなかった。

それからはもう、先生の立場は捨てた。とことん教えてもらおうと、腹を決めた。ジョイス夫妻には、3回も洗濯をさせてもらった。唯一自信があった「Can I use a washing machine?」を言いたいのが為に…。コンコードの街を覚えるために、何度も散歩に付き合ってもらった。1日の行程が終わった後、散策がてらまた学校に戻り、さまざまな部活動の練習見学や施設見学をした。休日には、日本食（親子丼とカレーライス）を振る舞ってみた。

ジョイス夫妻には、理想的な夫婦の姿を学ばせてもらった。

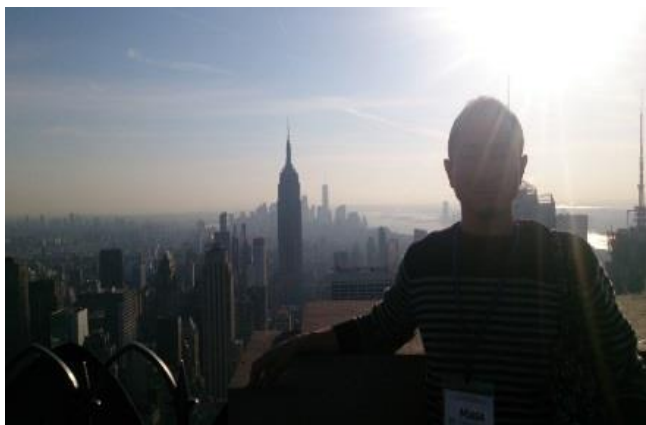
70歳を超える2人は、互いの生き方を尊重しあい、無理をせず、付いては離れ、離れては付き…。象徴的だったのは、2人で出かける時だった。夜のボストンでも、コンコードの夕方の散歩でも、パーティーに向かうほんの10mでも、そっと腕を組んで歩く。そして、どちらかが疲れてそうな時は、言葉を交わすより、トントンと身体に触れるのだ。

ビルは、やさしく親切で気配りが素晴らしく、真のジェントルマンだった。

クリスティーナは、情熱的で異文化への理解があり、外見のみならず内面もビューティフルだった。2人との1週間で、身体の中がきれいになった。本当にありがとう！



ボストン美術館にて
～ジョイス夫妻と～



ロックフェラーセンターにて

ついに、ニューヨークに行く日が来た！身体の底からわき上がる興奮が抑えられない。もともとミーハーな性格の私は、興奮していた。大人ぶって必死に隠そうとしていたが、無理だった。

初日は、ロックフェラーセンター展望台に登った。ニューヨークをぐるりと一望でき、霞の向こうに自由の女神像も見えた。みんなで歩いたタイムズスクエアの熱気も、忘れられない。

2日目は、憧れの「自由の女神」だ。波の向こうに、少しずつ迫ってくるアメリカの象徴は、私にこう思わせた。「夢が叶ってしまう。嫌だ。近づいてくるな。」と…。こうして、女神像の足下で虚無感に押しつぶされていた私に、名平先生は「じゃあ、次は奥さんと見に来なよ。」と、救いの手を伸ばしてくれた。人生を豊かに生きるには、「やったー！」より「つぎ何するかなあ？」の意識が大切なんだと、学ばせて頂いた。

いま、少しずつ日常の喧噪に毎日が支配されつつある。

しかし、心の奥底では大切な宝物が静かに輝きを放っている。

自分が好きなことをやられているのは、平和があってこそ。それを、今までどれだけたくさんの方々を支えられてきたのか、痛感した。世界の一員である私たちにとって、一番大切なのは「平和」だと…。一人の人間として、世界の平和に少しでも貢献していきたい。また、教員の立場として少しでも多くの生徒に、好きなことをやれている幸せを伝えていきたい。今は、人生の転機を与えてくれた七飯町への感謝の気持ちを感じながら、「世界平和への貢献」の第一歩を具体的にどう踏み出すべきか、心地良く悩んでいる。

最後に、私は「先生」として出発したはずだが、たくさんの方のことを教えられて帰ってきた。

最高のメンバーだったと思う。今度会う時は、家族に会う感覚になりそうだ。たった11日間で、こんなに素晴らしい体験と絆ができるのだと、しみじみ思う。ここだけの話、ボストンローガン空港へは、クリス・ハウエルの引っ越し荷物運びが、訪問団の極秘任務となっていた。それを、無難にコンコードまで運びきったところで、今回の訪問団の絆が証明されていたのかもしれない…。



ニューヨーク
タイムズスクエアにて